

教育目標		心身豊かに学び合う子どもの育成					
重点目標		Ⅰ 学び合いの学校づくり					
		①教育目標の具現化に向けて、学校評価検討委員会及び学校運営協議会を計画的に開催し、課題を共有して組織的改善に取り組む。					
		②伝え合いひびき合う学びを目指して、書くことを通して言葉による見方、考え方を働かせる授業づくりに努める。					
		③学習面や行動面で個別支援の必要な児童の情報共有を推進するとともに基礎的環境整備の充実、合理的配慮の提供や個別最適化の学びを図ることに努める。					
		④一人ひとりの子どもにたくましく生きる力やお互いを思いやる心を培うキャリア教育と道徳教育を推進する。					
		⑤教員の情報機器の活用能力の向上をはかり、よりわかりやすい授業作りに努めるとともに情報モラルについても指導する。					
		⑥「きれいにしよう」とする意思・能力・態度を育て、掃除時間が自分を磨く時間となるよう指導する。					
		⑦学校生活のきまりについて全職員が共通理解をはかりつつ指導にあたる。					
		⑧楽しく安心して運動に取り組むことができるよう指導する。					
		⑨教職員の意識改革と組織的な取り組みを推進する。					
		Ⅱ 開かれた学校作り					
		①家庭や地域、学校運営協議会、関係機関と連携した取り組みを進め、不登校・いじめ・問題行動の未然防止・早期発見・即時対応に努める。					
		②災害からの身の守り方や交通ルールなど校外外での安全な過ごし方の指導を徹底するとともに、職員・地域・保護者で連携をはかり、子どもたちの安全を守る。					
		③学校だよりやホームページ、グーグルクラスルーム、保護者向け一斉メール配信等を活用して、積極的な情報発信を行うとともに、情報管理を徹底する。					
項目	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価
学力の向上	(1)教育課程	教育目標の具現化に向けて、校務分掌の垣根を越えて課題を共有、解決できる場を設定する。 ・学校評価検討委員会を計画・運営する。その中でそれぞれの分掌の現状と課題を集約し、共有・検討できるような教育課程の立案、施行、評価を行う。 ・カリキュラムマネジメントを意識し、教科横断的な視点で教育課程を行う。 ・職員会議においては、部会・学年打ち合わせ等を有効に活用し、提案及び協議内容を精査し、スリム化をはかる。 ・教職員用のマニュアルを活用し、全職員が共通理解をはかりつつ業務、指導にあたる。 ・チームワークと時間対効果を意識した業務の推進を行う。	・学校評価検討委員会を適宜開催し、 ①今年度の重点目標、具体的施策の検討 ②成果と課題、改善策の検討 ③来年度重点目標の設定を行い、教育目標の具現化に役立てる。 ・学校評価アンケートの教育課程の項目「お子様は楽しく学校に行っていますか」(保護者用)、「学校は楽しいですか」(児童用)で肯定的な意見がともに90%を超える。(昨年度94.6%、87.6%) ・教職員用内部アンケートで、「各分掌・職員会議などにおいて業務改善がなされたか」で肯定的な意見が85%を超える。(昨年度88%)	B	【成果】 ・学校教育目標・重点目標を意識して教育活動に取り組むことができた。 ・児童 アンケート「学校は楽しいですか」で肯定的な意見が88.9%(昨年度87.6%)、保護者アンケート「お子さんは楽しく学校に行っていますか」で肯定的な意見が92.8%(昨年度94.6%)、で昨年度と同等を維持することができた。 ・児童アンケート「学校行事は楽しいですか」で肯定的な意見が95.9%(昨年度95.8%)、保護者アンケート「お子さんは学校行事に楽しく参加していますか」で 肯定的な意見が97.8%(昨年度97.8%)で昨年度と同等であった。 【課題】 ・児童アンケートの「学校は楽しいですか」で、3年間の経過を見ると、少しずつ肯定的意見が下がってきていることが気になる。	・引き続き各職員が学校教育目標・重点目標を意識して教育活動に取り組んでいく。 ・児童が学校が楽しいと思えるような授業づくりや学年での取り組みなどで工夫していく。 ・学校行事では、児童が達成感を味わえるような内容になるよう、継続して取り組んでいく。	・児童が達成感を味わえるように、参加型の授業・行事となるようさらなる取り組みに努力してほしい。 ・概ね目標を達成されており、引き続き維持向上を目指して取り組んでいたことを望みます。 ・コロナ5類移行後、行事等も以前のようにすめられるようになりましたが、内容や取り組み方などを工夫して楽しく学校に通えるよう、さらなるご尽力を期待します。 ・職員が学校教育目標・重点目標を共有しチームワークを発揮して取り組んだ成果がアンケート結果に表れている。
	(2)学習指導	・「主体的・対話的で深い学び」や「言葉による見方・考え方を働かせる授業」のあり方を研究する。 ・読み書き計算などの基礎的な学力を児童に定着させるための教育活動を計画する。 ・「書くこと」を通して豊かな語彙を獲得するための授業づくりを推進する。 ・配慮を要する児童に対する手立てを具体化し、全ての子の授業参加を促す。 ・学力向上委員会において、系統的な学習のとりまとめや、学力テストの結果に基づいた対策などの検討を行う。	・教職員用内部アンケート、「本校の教師は『言葉による見方・考え方を働かせる授業』を行っている」の肯定的意見の割合が70%を超える。 ・児童アンケート「学校の授業はわかりやすいですか」の肯定的意見の割合が90%を目指す(昨年度95.1%) ・「書くことが好きですか」の項目において肯定的意見の割合が昨年度を上回る。(64.9%) ・保護者アンケート「お子さんは学力が定着していますか」の肯定的意見の割合が昨年度を上回る。(昨年度87.9%)	A	【成果】 ・教職員用内部アンケート「本校の教師は『言葉による見方・考え方を働かせる授業』を行っている」の肯定的意見の割合が97.2%(昨年度92.6%)で目標を上回った。 ・児童アンケート「学校の授業はわかりますか」の肯定的意見の割合が94%(昨年度95.1%)で、目標を上回った。 ・児童アンケート「書く事が好きですか」において肯定的意見が67.6%(昨年度64.9%)となり、昨年度より2.7%上昇した。 【課題】 ・保護者アンケート「お子さんは学力が定着していますか」の肯定的意見の割合が85.8%(昨年度87.9%)で、昨年度より2.1%減少した。	・学力向上委員会において、系統的な朝学習のとりまとめや、学力テストの結果に基づいた対策などを行う。 ・児童が、書くことが楽しいと感じられるような取り組みや実践を教職員で共有し、普段の授業づくりに役立てる。また、その中から豊かな語彙の獲得につながる取り組みを校内で研究していく。	・活字離れが進み国語等において、文章問題の内容の理解ができず、決められた条件を満たす回答ができなと言われたり、理解力を高めるための考え方や自分の考えを文章で表現する指導をお願いします。 ・「書くこと」と「読むこと」は表裏一体と考えられる。読後感想を書くことにより考える力がつき良いサイクルとなる。 ・教職員、児童アンケートの結果は昨年度より目標を上回っているが、保護者の結果が減少しているのが気になる。 ・低、中、高学年のそれぞれの結果を分析し、改善が必要であれば情報共有などをしていただき次年度へ生かしてほしい。 ・書いて覚えると言うことが基本ではあるが、タブレットなどのデジタルツールとの使い分けの工夫も更にお願しいたい。 ・わかりやすい授業づくりに尽力されており、書くことが楽しいと感じる子どもが着実に増加していることは評価できる。 ・4年生が伝統工芸について笹ポスターに発表する取り組みが良かったです。自分が書いた内容がうまく伝わるのかを知る機会になったと思う。 ・授業のUD化を推進させるために、参加→理解→習得→活用の流れが必要。
(3)生活指導	・不登校の早期発見、対応に努め、児童が安心して通えるよう支援する。 ・いじめや問題行動の未然防止や早期発見、対応を図り、児童が楽しく過ごせる環境を作る。 ・自分から率先してあいさつができる児童の育成を目指す。	・学年、生活指導部会、管理職間の円滑な連絡体制の確立、校内職員の共通理解を徹底し、チームで課題解決にあたる。 ・日々の観察から登校しぶり等に気がつき、家庭訪問や、電話連絡により家庭と密に連携を図る。 ・いじめ防止等のための基本方針にそった対応マニュアルの見直しと周知を行い、組織的な対応を継続する。 ・いじめアンケートや聞き取り調査、セルフチェックシートによる観察からいじめの早期発見、対応に努め、家庭訪問や、電話連絡により家庭と密に連携を図る。 ・道徳教育でいじめや差別の問題について考え、日々の行いに立ち返る働きかけを行う。	・保護者アンケートにおいて「学校はいじめや心の問題に取り組んでいますか」が80%を超える。(昨年度74.7%) ・児童アンケートにおいて「学校は楽しいですか」が90%を超える。(昨年度87.6%) ・児童アンケートにおいて「家族や友だち、先生、地域の方などに自分からあいさつができていますか」が90%を超える。(昨年度85.8%)	B	【成果】 ・教師の校内アンケートにおいて「本校の児童は学校や社会のルールやマナーを守っている」の項目において8%以上、向上した。(昨年度88.9%⇒97.1%) ・教師の校内アンケートにおいて「本校は問題行動が起きたとき、組織的に対応できているか」が目標の90%を上回った。(昨年度96.3%⇒97.1%) ・保護者アンケートにおいて「お子さんは楽しく学校に行っているか」が目標の90%を上回った。(昨年度94.6%⇒92.8%) ・児童アンケートにおいて「家族や友だち、先生、地域の方などに自分からあいさつができていますか」の項目で昨年を目標の90%を下回った。(昨年度85.8%⇒82.7%) 【課題】 ・保護者アンケートの「学校はいじめや心の問題に適切に取り組んでいますか」の項目が2022年度から上昇傾向(昨年度71.9%⇒74.6⇒76.6%)にあるが、目標の80%を下回っており、引き続き、保護者への啓発が必要である。 ・長期欠席児童が増加傾向にあるため、そこへのアプローチが必要である。	・保護者アンケートの「学校はいじめや心の問題などに適切に取り組んでいるか」の項目に対して18.3%(昨年度19.4%)が「わからない」と回答しており、学校の取り組みが家庭にわかりやすく伝わっていないことが推測できる。引き続き、いじめに対する学校の取り組みを発信していく必要がある。 ・いじめアンケート、生活指導部会、ケース会議等での学校全体での情報共有を徹底すること。また不登校傾向児童の事前把握と早期対応に努め、引き続き、関係職員と連携を深める必要がある。	・防止対応マニュアルの随時見直しが必要。「決める」それを「守る」守れないときは見直し「直す」それをまた「守る」。これを繰り返し徹底する。 ・「社会のルールを守る」ことの指導強化。公園等での行動に問題あり。保護者との連携も必要。 ・「あいさつ」はコミュニケーションの基盤と考え強力運動に取り組まれてはどうか。 ・アンケート結果で高い評価を得ており学校のきめ細やかな取り組みの素晴らしさを感じられる。長期欠席者へのアプローチが実ることを期待する。 ・「廊下や階段ですれ違うときには、あいさつをしよう」など場面を具体的に説明してはどうか。 ・重大ないじめの発生の報告は受けていないので、今後も注視して取り組んでほしい。 ・遅刻する児童がやや目立つようになってきたと感じる。コロナ以降欠席へのハードルが下がってきていると思う。より細かいケアやアプローチを学校をあげてお願いします。

豊かな心・健やかな体	(4)安全管理	・地震・火災・不審者遭遇時、児童が自分で判断し、命を守るための行動をとることができるようにする。 ・正しい校内の歩き方や通学のしかた、遊具の安全な使い方、自転車の乗り方ができるようにする。 ・上の3点について、安全指導について家庭と連携を図りながら取り組む。	・自分で災害や不審者から命を守るための指導や訓練を適切に行っていく。 ・通学路や校内の正しい歩き方について、教職員が引き続き意識を統一させ指導にあたる。 ・終業式や学校朝礼による全体指導や資料を活用した学級指導などを通して啓発する。 ・児童が安全に遊具を使用できるよう全体指導を行う。 ・児童が、安全について学習したことを保護者にきちんと伝えられるような指導を行う。また、指導内容が家庭に伝わる工夫(手紙、懇談、ホームページ等)をして啓発する。	・学校評価児童アンケートの安全指導の項目「もし火事や地震にあったり、ふしん者に出会ったりしたら、先生がいなくても身を守る行動がとれますか」で、肯定的な意見の割合が90%を超える。(昨年度93.7%) かつ、訓練に真剣に取り組むことができる。 ・学校評価児童アンケートの安全指導の項目「学校の廊下や道路では、右側を広がらずに歩くことができる」と、肯定的な意見の割合が80%を超える。(昨年度79.8%) ・学校評価の保護者アンケートの「学校は校内での過ごし方や遊具の安全な使い方、交通ルールなどを指導していますか」の項目で、肯定的な意見の割合が80%を超える。(昨年度78.8%) ・学校評価保護者アンケートの安全指導の項目「学校は火事や地震・不審者などの危機に適切に対応できるような指導や訓練を行っていますか」で肯定的な意見の割合が90%を超える。(昨年度84.5%)	B	【成果】 ・学校評価児童アンケートの安全指導の項目「もし火事や地震にあったり、ふしん者に出会ったりしたら、先生がいなくても身を守る行動がとれますか」で、肯定的な意見の割合が92.9% (昨年度93.7%) で目標を上回った。 ・学校評価児童アンケートの安全指導の項目「学校の廊下や道路では、右側を広がらずに歩くことができる」と、肯定的な意見の割合が81.8% (昨年度79.8%) で目標80%を上回った。 ・学校評価の保護者アンケートの「学校は校内での過ごし方や遊具の安全な使い方、交通ルールなどを指導していますか」の項目で、肯定的な意見の割合が82.0% (昨年度80.2%) で目標を上回った。 ・学校評価保護者アンケートの安全指導の項目「学校は火事や地震・不審者などの危機に適切に対応できるような指導や訓練を行っていますか」で肯定的な意見の割合が86.3% (昨年度84.5%) で目標を下回った。「分からない」と答えた保護者が多かった。 ・児童アンケートの安全指導の項目「学校の廊下や道路では、右側を広がらずに歩くことができる」と、肯定的な意見の割合が81.8% (昨年度79.8%) で目標を下回った。 【課題】 ・4つのアンケートは昨年度より上回っているが、保護者アンケートの安全指導の項目「学校は火事や地震・不審者などの危機に適切に対応できるような指導や訓練を行っていますか」で肯定的な意見の割合が86.3% (昨年度84.5%) で目標を下回った。「分からない」と答えた保護者が多かった。 ・児童アンケートの安全指導の項目「学校の廊下や道路では、右側を広がらずに歩くことができる」と、肯定的な意見の割合が81.8% (昨年度79.8%) で目標を下回った。	・保護者アンケート①「学校は校内での過ごし方や遊具の安全な使い方、交通ルールなどを指導していますか」、②「学校は火事や地震・不審者などの危機に適切に対応できるような指導や訓練を行っていますか」と答えた保護者が多かった。また、②の方は下回っているのに、学校だよりやホームページ、学年通信などを使って避難訓練や交通ルールなどを引き続き保護者に向かって発信していく。 ・児童の登下校時の交通ルールやマナーなどは終業式や学級指導などで引き続き指導していく。	・帰宅後に外出する児童の大半が自転車を使用しているが、2〜3台と横になっての並走が見られる。住宅街でもあり、幼児・高齢者も多く注意が必要である。 ・非常時の対応には定期的な訓練が必要である。 ・学校と保護者との問題意識の共有が必要である。 ・学校の取り組みを「わからない」と答えた保護者が多いことは本当に残念なので啓発・発信方法を工夫することが必要かもしれない。 ・登下校中、喋りながら前を見ずに歩いていて、自転車が近づいても気づかないという状況がある。 ・訓練の様子などを学校便りで紹介、オープンスクールや面談の時などに映像公開等で保護者に見てもらうことで、「わか
	(5)保健管理	・「早寝・早起き・朝ごはん」等の基本的生活習慣の定着をはかる。 ・口腔内の健康の保持増進をはかる。 ・平素より感染症対策として環境衛生に配慮し、児童一人ひとりが清潔行動を意識できるよう指導を実施していく。	・児童の生活習慣アンケートや健康診断の結果をもとに、ほげんだより、ホームページ、個人懇談会などを利用して児童・保護者への啓発を行い、家庭での児童への指導を推進する。 ・保健室での個別指導の強化 ・掲示物を利用した啓発活動を行う ・平素より感染症対策としての環境衛生の充実をはかる。 ・児童一人ひとりが清潔行動を意識できるよう指導を継続して行う。	・アンケートで、「早寝・早起きを守っている」が70%(昨年度63.9%)を上回り、「朝ごはんを食べている」が90%(昨年度93.6%)を維持する。 ・歯科受診勧告書の提出率を経年比較し、受診率が1〜4年60%(昨年度45.0%)、5・6年40%(昨年度38.3%)を上回る。	B	【成果】 ・児童アンケートで「朝ごはんを食べている」については94.9%(昨年度93.6%)ができていますと回答。「朝ごはんを食べる」ということについては、定着している。 【課題】 一方、「早寝・早起き」については児童アンケートで66.2%(昨年度63.9%)ができていますと回答。しかし、保護者アンケートでは「早寝・早起き」について86.3%ができていますと回答しており、児童と保護者の意識に乖離があった。 ・歯科受診率(う歯治療率)は1〜4年は55.5%(昨年度45%)と昨年度よりは回復したものの目標を下回り、5・6年38.0%(昨年度39.0%)と目標とほぼ同等であった。	・「早寝早起き」にスポットを当てた指導や啓発を行い、基本的生活習慣の定着につなげていく。 ・低学年・高学年の受診率が目標を下回った。生活習慣や病院受診などは家庭での取り組みが必要となってくる。ほげんだよりの活用など、より一層の啓発に取り組んでいく。	・地域自治協議会の青少年部会のスローガンでも「早寝・早起き・朝ごはん」としている。健康な生活を送るために十分な睡眠が必要であることを指導してほしい。 ・なぜ児童と保護者の意識に乖離があるのか？ ・「早寝・早起き・朝ごはん」は保護者の意識が大切。学校は情報発信を続けてほしい。地域を巻き込んだ啓発など、単年度だけでなく複数年計画で
	(6)保健体育教育	・児童の体力、運動技能の向上を目指し、運動への意欲・関心を高める。 ・体育施設、備品の充実をはかり、活動しやすい環境を整える。	・授業作りについての研修を行い、授業改善を計る。(体力向上、楽しい運動遊び、ニュースポーツなど) ・授業作りに関する本を配付し授業研究に生かす。 ・各単元が始まる前に備品や消耗品のチェックを行う。 ・備品を整理するために、どこに何があるかわかるように視覚的な配慮をする。	・学校評価児童アンケートの「休み時間や家に帰ってから外で遊んでいますか。」の項目で肯定的な意見の割合が75%を超える(昨年度75.7%) ・学校評価児童アンケートの①「学校の図書館や体育館は利用しやすいと思いますか」②「学校の道具や器具が壊れたとき、すぐに修理してくれていると思いますか」の項目で肯定的な意見の割合が昨年度を超える。(昨年度①94.9%②87.3%)	B	【成果】 ・学校評価児童アンケートの「休み時間や家に帰ってから外で遊んでいますか。」の項目で肯定的な意見の割合が72.8%で、昨年度よりも2.9ポイント減少した。 ・②「学校の道具や器具が壊れたとき、すぐに修理してくれていると思いますか」の項目で肯定的な意見の割合が昨年度から3.8ポイント増加している。 ・体育委員会の活動で、ボールの空気入れや一輪車の整頓当番をしたことで、普段の学習や休み時間に備品を使用しやすい状態をつくることができた。 【課題】 ・学校評価児童アンケートの①「学校の図書館や体育館は利用しやすいと思いますか」の	・引き続き授業改善を目指して研修をおこない、運動を日常の中に取り入れられるようにする。 ・朝の休み時間を活用して、運動遊びに親しむ機会をもつ。 ・学校の道具が壊れたり使用ができなくなったりした際は、できるだけ速やかに対応していく。 ・古い備品や消耗品を計画的に買い換えていく。 ・体育委員の活動は継続していく。	・3学期に長縄大会を実施されているが、クラス対抗の競技を学期ごとに行うなどして、遊び心を取り入れながら、外で遊ぶように仕向けていくのはいかがでしょうか。
	(7)人権・同和教育	人権・同和に関する問題や児童が抱える問題の対応について職員で情報を共有する。	・学級づくり研修会や夏季研修等の職員研修を実施し、人権・同和问题への理解を深め、一人一人の児童に寄り添った学級経営に取り組む。 ・児童の発達や実態に合わせた人権課題を取り上げ、人権同和教育授業参観等を活用して、授業を行う。 ・仲間づくり集会を行い、発表や事後指導を通して、より良い学級づくりに取り組む。	・児童アンケート「あなたがこまったときに先生は相談ののってくれますか」で肯定的な意見が90%を超える。(昨年度94.8%) ・児童アンケート「クラスで苦手なことを頑張っている友だちを応援できていますか。」の項目で肯定的な意見が90%を超える。(昨年度90.6%) ・教師アンケート「本校の教師は悩みや不安を抱えている児童の相談にのっている。」で肯定的な意見の割合を維持する。(昨年度100%)	A	【成果】 ・児童アンケート「あなたがこまったときに先生は相談ののってくれますか。」93.3% 「クラスで苦手なことをがんばっている友だちを応援できていますか。」94.3& 「自分を大切にすることや、他の人へのおもいやりについて学んでいますか。」94.5% 「あなたのクラスでは、いじめを許さないクラスづくりに取り組んでいますか。」92.2% と、概ね 90%を超え、肯定的な意見が多かった。 ・職員アンケート「本校の教師は悩みや不安を抱えている児童の相談にのっている。」94.1% 本校はいじめを許さない学校、学級づくりに取り組んでいる。97% 【課題】 ・保護者アンケート「お子様は思いやりの心を持ち、命を大切にしていますか。」97.8% 保護者アンケート「学校はいじめや心の問題などに適切に取り組んでいますか。」76.6% わからない18.3%	・保護者アンケート「学校はいじめや心の問題などに適切に取り組んでいますか。」76.8%を高め、わからないの18.3%を減らすために保護者に、学校の取り組みを知っていただく努力をする。	・保護者の意識を高めるための広報活動の強化が必要だ。 ・アンケート結果で高い評価を得られていることは素晴らしい。改善策が「保護者」に知り組みを知ってもらう努力」のみになっていることは残念だ。人権課題がないと捉えてしまっているのではないかと。 ・人権同和は非常に難しい取り組みだが、相手を大事に思う心をしっかりと教えていただきたい。「ごめんなさい」「ありがとう」が自然に言えるような学校になると良いと思う。また、児童だけでなく家庭・先生方も含めて言葉遣いなど気をつけていくよう啓発や教育の実施の取り組みができたと思う。 ・多様な社会(ダイバーシティ)を目指す社会において人権尊重は重要。学校もインクルーシブが進む中、人権教育を重視した取り組みを願います。
	(8)特別支援教育	インクルーシブな社会の構築に向け、各学級の配慮を要する児童や特別支援学級在籍の児童、通級による指導を受ける児童についての理解を深め、思いやりの心を育て、助け合って共に生きようとする人間性豊かな子どもを育てる。	・教育のユニバーサルデザイン化を推進し、基礎的環境整備を図る。チェックシートを作成し、学校全体で共通理解して取り組む。学校全体で「意識できていない」項目に着目し、改善策を検討する。また、ホームページで本校のユニバーサルデザイン化について発信する。 ・支援教育研修会で各学級の配慮を要する児童や特別支援学級在籍の児童、通級による指導を受ける児童についての理解を深める。 ・部会(校内委員会)で支援の必要な児童について整理・報告し、各学年におろすことで全職員で共有していく。 ・各学級の配慮が必要な児童に対し、どのような合理的配慮を行うとよいか、様々なケースから具体策を検討する研修を行い、日々の実践にいかす。 ・各学級の配慮が必要な児童について、校内の支援の流れを整備する。	・教育のユニバーサルデザイン化チェックシートを用いて18項目をチェックし、「意識できていない」の後期の数値が、前期の数値を上回る。 ・学校評価アンケート(教職員用)において、「本校は校内委員会やコーディネーターを置き、組織的に取り組んでいる。」(昨年度100%) 「本校は学習面・生活面等で配慮の要する児童に対する具体的な指導の手立てを工夫して指導を行っている。」(昨年度100%) 「本校は学習面・生活面等で児童が学びやすく、過ごしやすい環境づくりに向けて基礎的環境整備(UD化)に取り組んでいる。」(昨年度100%)の3項目で、肯定的な回答の割合を維持する。 ・学校評価アンケート(保護者用)において、「学校は、教育のユニバーサルデザイン化に取り組んでいますか。」の項目で、肯定的な回答の割合が80%を超える。(昨年度82.3%) ・学校評価アンケート(児童用)、「クラスで苦手なことを頑張っている友だちを応援できていますか。」の項目で肯定的な回答の割合が90%を超える。(昨年度92.5%)	A	【成果】 ・教育のユニバーサルデザイン化チェックシートで、すべての項目において後期が前期の数値を上回った。 ・学校評価アンケート(教職員用)において、「本校は校内委員会やコーディネーターを置き、組織的に取り組んでいる。」の項目が97% (昨年度100%) 「本校は学習面・生活面等で配慮の要する児童に対する具体的な指導の手立てを工夫して指導を行っている。」の項目が100%(昨年度100%) 「本校は学習面・生活面等で児童が学びやすく、過ごしやすい環境づくりに向けて基礎的環境整備(UD化)に取り組んでいる。」の項目が100% (昨年度100%)で3項目とも高い数値を維持することができた。 ・内部アンケートにおいて、「特別支援教育の研修は適切に進められたか。(夏季研修・校内研修・ブレイ室参観、懇談、研修)」の項目では、97%と高い数値であった。これらの結果から、配慮や支援を要する児童について、部会や委員会等で手立てや今後の支援の方向性を話し合い、具体的な支援を進めることができたと考えられる。 また、「教育のUD化チェックシート」を活用により、教室環境の整備や授業づくりの際に意識することができた。 ・学校評価アンケート(保護者用)において、「学校は、教育のユニバーサルデザイン化に取り組んでいますか。」の項目では肯定的な回答が82.2%(昨年度82.3%)で、前年度同様に80%を超えた。 ・学校評価アンケート(児童用)において、「クラスで	今後もHPや学校だより等で知ってもらう機会を作るとともに、教師の具体的な支援や取り組みを増やし、それを参観等で保護者に意識して見てもらえるように啓発する。	・ユニバーサルデザイン化促進に注力され成果を挙げられていることに敬意を表します。 ・障がいのある人の気持ちを十分理解することに配慮してほしい。 ・一人一人を大切にしたい教育に取り組めていることはとても評価できる。 ・ユニバーサルデザイン化が進んでおり、継続して行っていたくよう願う。転任された先生などには浸透していない部分も見受けられるところがあるので、新年度の早い段階での教師間でのレベル合わせが行われると更に良いかと思う。 ・笹ポーターとして一定期間学校に入り、子どもたちと接することも多い中、配慮を要する児童の様子や具体的な配慮を全体像として聞かせていただければ長い間学校や子どもから遠ざかっている世代の沙サポーターの理解にもつながり地域も含めてのインクルーシブな社会の構築に向かうと思う。

		・多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や活動を行う上で必要となることについて理解し、行動の仕方を身に付ける。 ・集団や自己の生活、人間関係の課題を見だし、解決するための話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりする。 ・集団や社会における生活及び人間関係をよりよく形成するとともに、自己の生き方についての考えを深め、自己実現を図ろうとする態度を養う。 ・児童の自発的、自治的な活動を通して、学級経営を充実させる。	・児童会活動を通して、学校および児童が活性化する取り組みを考え、発信していくとともに、クラブ活動などの異学年交流を通して人間関係を育成する。 ・学級活動を中心として話し合い活動を行い、児童が積極的に学校をより良くするために行動や発言していくようにする。そのために、話し合いの型を作り、どのような学年の児童が集まっても同じ話し合いができ、合意形成できるようにする。(委員会、高学年用の型は活用されているので、低学年用の話し合いの型を作成する)	①教職員用内部アンケートの「委員会活動を計画的に行えたか」(昨年度96%)、「クラブ活動を計画的に行えたか」(昨年度96%)で肯定的な意見を維持する。	A	【成果】 ・教職員用内部アンケートの「委員会活動を計画的に行えたか」で、肯定的な割合が向上した。(昨年度96%→100%) ・教職員用内部アンケートの「クラブ活動を計画的に行えたか」で、肯定的な割合が向上した。(昨年度96%→100%) ・話し合いについての教具を各学級の常設セットとして配布した。 【課題】 ・教職員用内部アンケートの「各教科・道徳・笹のね・外国語活動・特別活動の時間数は確保でき、計画的に進められたか」で肯定的な割合が減少した。(昨年度100%→94%)ただし、特別活動の時間についてのみ答えられたものではないことには留意が必要である。 ・クラブ活動について引継ぎがほしいという意見があった。	・学級活動における話し合い活動を充実させ、子どもたちの主体的な活動に対する姿勢を育てる。 ・委員会活動については、活動内容が主体的になるよう、担当者を中心に研究を重ねる。また、業間休みや昼休みを有効に活用していく。 ・委員会活動の常時活動を通して、学校の課題やさらに良くなっていきたいところを見つける態度を養う。 ・クラブ活動の引継ぎについては、委員会活動と同様に、どのような活動をしたのかを毎回振り返りに書いてもらい、来年度に向けて引き継げるようにしていく。	・自発的な学級活動、委員会活動の支援を続けたい。 ・「このクラブに笹ポーターが入ってほしい」と先生方から要望があったのが良かった。 ・委員会活動やクラブ活動の様子など学校運営協議会でもあまり取り上げられないので、児童が主体的に取り組んでいる様子などを紹介していただけると、意見も述べやすいし成果と課題や改善策など共有できるかと思う。
	(10)情報管理・情報教育	・ICT機器を活用し、わかりやすい授業作りに努める。 ・USBメモリ等の情報機器に関する管理方法について全職員で周知徹底をはかる。 ・情報教育(プログラミング教育・情報モラル・セキュリティ)の周知・推進を行う。	・情報機器・School Taktについての基本的な使い方についての研修会・回覧等を実施するとともに、タブレット端末の使い方の研修を行う。 ・情報機器を整理し、どこに何があるかわかりやすいようにする。 ・プログラミング教育の基本的な取り組みについて研修を行い、周知を図る。 ・USBメモリの管理表を作成し、適切に使用する。 ・ID/PW類の取り扱い、オンライン授業での注意点、児童のタブレット使用における写真の扱いや個人情報の扱い方のルールについて年度初め等定期的に注意喚起を行う。 ・タブレットの活用に関しては、AIDリルの宿題実施も含めて引き続き行っていくよう周知していく。 ・年間カリキュラムにある情報モラルの指導に併せて、4、5、6年生の出前授業を	・学校評価教師アンケートの「本校は児童・保護者の個人情報の保護に努めている。」で昨年度と同程度の肯定的な回答の割合を維持することができた(昨年度100%) ・学校評価保護者アンケートの「学校は子ども・保護者に関する個人情報に適切に保護していますか。」で肯定的な回答の割合が80%を超える。(昨年度87.1%) ・学校評価児童アンケート「先生は、ICT機器(テレビやパソコン・タブレット等)を使って、教え方にいろいろと工夫していますか。」で肯定的な回答の割合が90%を超える。(昨年度93.3%) ・学校評価保護者アンケート「タブレットの活用によりお子様の学習意欲が向上していますか。」で肯定的な回答の割合が80%を超える。(昨年度76.1%) ・学校評価児童アンケート「あなたは家(学校の外)で、「AIDリル(ドリルパーク)」や「スクールタクト」を使って、教え方にいろいろと工夫していますか。」で肯定的な回答の割合が95%を超えることができた。(昨年度93.3%→今年度95.5%) ・昨年度、学校評価児童アンケートに追加した「あなたは家(学校の外)で、AIDリル(ドリルパーク)を一週間にどれくらい使っていますか。」を、「あなたは家(学校の外)で、まなびポケットのアプリやブックマークされたサイトを1週間にどれくらい学習に使っていますか。」に変更。今回は質問を特定のアプリに限定したが、今回はまなびポケットの追加によって質問する範囲を広げたこともあり、目標値の70%を超える結果となった。(昨年度61.2%→今年度76.3%)	B	【成果】 ・学校HPの更新について毎週月曜日に下校メールで周知することでHPの閲覧回数を伸ばすことができた。 ・宿泊行事ではGoogleClassroomを活用することで必要な情報を必要な保護者に適宜届けことができた。 ・学校HP上の不用品情報を削除し、給食レシピなどの保護者の要望に添った情報を掲載することができた。 【課題】 ・学校評価アンケートでの学校は「学年便利・笹小便利」やHPなどで教育活動の様子を保護者に伝えていますか。の項目において前年度より0.5%減少した。	・タブレットの活用に関しては、AIDリルの宿題実施も含めて引き続き行っていく。 ・生活指導におけるネットトラブルに関しては、年間カリキュラムにある情報モラル、職員に向けての情報モラルの周知、加えて日々の学級指導などを含めて対応する。 ・ID/PW類の取り扱い、オンライン授業での注意点、児童のタブレット使用における写真の扱いや個人情報の扱い方のルールの再度徹底や、タブレットの中身のデータの整理整頓を行う。 ・保護者アンケートの「タブレットの活用によりお子様の学習意欲が向上していますか」における肯定的な回答の割合の向上をするために、AIDリル・ドリルパークにおける	・情報モラル、セキュリティ保持などに関する教育を徹底いただきたい。 ・情報教育はこれからも求められることが増えていくと思われる。先生方の研修が大変かと思いますが頑張ってください。 ・ネットによるトラブルや情報漏洩防止など引き続き取り組みをお願いしたい。 ・外国では紙ベース教育に回帰しているが、タブレットを有効に使いながらの授業の工夫に期待する。ただし、タブレットを勝手に触って先生の話聞いていない児童も見られるので、目配りも忘れないうに進めていただきたい。
開かれ信頼される学校園	(11)保護者・地域との連携	・学校通信に加え、ホームページやメール配信を活用し、学校から積極的な情報発信を行う。 ・学校行事、地域行事などを通して、地域、コミュニティスクールとの関係を深めていく。 ・『QRコード・ツイタもん・GoogleClassRoom』などの活用により、学校・保護者間のやりとりのデジタル化を推進する。	・多くの教職員がホームページを更新できるよう周知し、チェックシートを活用してどの学年も情報を発信していく。 ・地域行事等に可能な限り教職員が参加できるよう呼びかける。 ・学年便利や学校からのお知らせにQRコードを記載したり、ツイタもん で連絡行い、学校ホームページの活用推進を図る。	・学校評価保護者アンケートの「学校は「学年だより・笹小だより」やHP・下校メールなどで教育活動の様子を保護者に伝えていますか。」で昨年度より肯定的な意見の割合を維持する。 ・各学年の学びの具体的な様子を毎月1回程度ホームページで公開する。	B	【成果】 ・学校HPの更新について毎週月曜日に下校メールで周知することでHPの閲覧回数を伸ばすことができた。 ・宿泊行事ではGoogleClassroomを活用することで必要な情報を必要な保護者に適宜届けことができた。 ・学校HP上の不用品情報を削除し、給食レシピなどの保護者の要望に添った情報を掲載することができた。 【課題】 ・学校評価アンケートでの学校は「学年便利・笹小便利」やHPなどで教育活動の様子を保護者に伝えていますか。の項目において前年度より0.5%減少した。	・情報モラル、セキュリティ保持などに関する教育を徹底いただきたい。 ・情報教育はこれからも求められることが増えていくと思われる。先生方の研修が大変かと思いますが頑張ってください。	・保護者意見・希望をくみあげて対応いただきたい。 ・他の保護者アンケートで「分からない」との回答が多かったとあることから、保護者への発信のあり方を工夫する必要があると感じる。 ・情報発信の方法など保護者向けは改善が見られると思うが、地域への発信が不十分かと思う。地域掲示板などに学校便りを掲示しているが、古新聞的になっていたりする。HPを自
	(12)施設・設備	・児童が安全に学校生活を送れるよう、修繕・改修すべき施設・設備がないか確認するとともに、既存の施設を安全に使えるよう、また、新しい施設を快適に使えるよう児童に指導していく。 ・「きれいにしよう」とする意思・能力・態度を育て、清掃時間が自分を磨く時間となるよう指導していく。	・毎月1回の安全点検を行い、技能員と連携して迅速な対応を行うとともに、安全な設備の使い方の指導を適宜行う。 ・全職員は自分の担当場所だけでなく近くの清掃場所も見回る。 ・美化委員会と連携する。 ・地域の方(笹ポーターさん)と連携して子どもたちの清掃活動を見守る。 ・清掃活動が充実したものになるよう、清掃道具の補充、点検を行う。	・学校評価児童アンケートの施設・設備の項目「学校の道具や器具が壊れた時、すぐに修理してくれていると思いますか」で肯定的な意見の割合が85%を超える。(昨年度83.5%) ・環境整備に対し児童、職員の意識が向上する。 ・学校評価児童アンケートの「あなたは清掃に前向きに取り組んでいますか」で肯定的な意見の割合を、昨年度と同等を維持する。(昨年度90.8%) ・学校評価保護者アンケートの「学校は児童に清掃の仕方や大切さを指導していますか」で肯定的な意見の割合を、昨年度と同等を維持する。(昨年度82.4%) ・学校評価教職員のアンケートの「学校は清掃について意欲的に取り組むよう指導できている」で肯定的な意見の割合を、昨年度と同等を維持する。(昨年度92.6%)	A	【成果】 ・毎月1回の安全点検を行い、技能員と連携して迅速な対応を行うとともに、安全な設備の使い方の指導を適宜行うことができた。 ・児童アンケートの「学校の道具や器具が壊れた時、すぐに修理してくれていると思いますか」で肯定的な意見が87.3%(昨年度83.5%)で前年度より上がった。 ・地域の方(笹ポーターさん)と連携しながら児童の清掃活動を行うことができた。→教職員のアンケートの「本稿は保護者や地域の人たちと協力して学校教育や社会教育を行っている」で肯定的な意見が昨年度を上回ることができた。 ・児童アンケートの「あなたは清掃に前向きに取り組んでいますか」で肯定的な意見が93.5%(昨年度90.8%)で昨年度より上回ることができた。 ・保護者アンケートの「学校は児童に清掃の仕方や大切さを指導している」で肯定的な意見が87.5%で前年度より7.6%上がり上回ることができた。 ・初年度に美化委員会と相談をして連携することができた。 ・教職員のアンケートの「学校は清掃について意欲的に取り組むように指導が出来ている」で肯定的な意見が94.2%で昨年度を上回ることができた。 【課題】	・児童がより意欲的に取り組むようにするためには、掃除の大切さを4月の内から丁寧に伝え、従来の指導の他にどのような効果的な指導があるのかをみんなで考えていく必要がある。	・効果的な指導の一環として、学校長による鋭気巡視を実施されてはと思う。 ・地域の笹ポーターさんとの連携が行われていることが素晴らしい。その成果がアンケート結果にあらわれている。 ・笹ポーターとして児童と一緒に掃除ができるのは楽しい。 ・笹ポーターの清掃支援の成果と相まってアンケート結果が目標達成できていることは嬉しい限りです。一過性に終わらず継続的な取り組みができるよう、教職員のご協力をよろしくお願いします。 ・体育館の空調設備が整い、グラウンドとともに環境面の改善がなされた。維持管理をしつかりできるように願います。

学校関係者評価総括

学習指導や特別活動、ユニバーサルデザイン化などで一定の評価をいただいている。また、笹ポーターの活動を通じた地域との連携も良い評価をいただけた。一方で、登下校の安全指導やあいさつ、生活習慣など学校だけでなく家庭や地域とともに取り組んでいく課題について意見を多数いただけた。

次年度に向けた重点的な改善点

学習指導において学力向上となるよう、研究推進部や学力向上委員会を中心に授業改善や児童の学力定着に取り組んでいく。生活指導部が中心となり、生活習慣の改善やあいさつの推進に取り組んでいく。地域や家庭への啓発方法を工夫していく。不登校・長期欠席児童についての対策や対応を学校全体で取り組み、多方面からのケアやアプローチに取り組んでいく。